

16. Fam. Aristolochiaceae ウマノスズクサ科

れ、栗に似た味で美味である。受粉期9月、果期4～5月。

16. Fam. Aristolochiaceae ウマノスズクサ科

双子葉類。花は両性。左右相称あるいは放射相称。一般に花弁は退化。がくは筒状ないし鐘状。おしべは6～40個、めしべは3～6個。多年生の草本または低木で、つる性のものも多い。熱帯から温帯に分布。7属約410種。

*Aristolochia* L. ウマノスズクサ属

根茎ある多年草か、多くはつる性の低木。花弁を欠き、がくが発達。おしべは6個、花柱は柱頭が6裂。共に合着して蕊柱をつくる。温帯から熱帯に分布。約300種。多くの薬用植物を含む。

1. 花冠は単唇形で盾形。
  2. 花冠の縁は全体にひろがる。
    3. 花冠唇部は極めて大。50cmに達する。……………*A. gigantea*
    3. 花冠唇部は小形。4 cm。……………*A. elegans*
  2. 花冠は上方の部分のみがよく発達し、ひろがる。
    4. 花冠は縁に肉質のひげ状毛がある。
      5. 全体は無毛。……………*A. fimbriata*
      5. 全体に疎長毛がある。……………*A. filipendulina*
    4. 花冠は唇部の内面と縁に赤色の肉質突起がある。
      6. 小剛毛がある。……………*A. odora*
      6. 小剛毛がない。……………*A. arcuata*
    4. 花冠は唇弁部に突起も毛もない。
      7. 葉は3裂する。
        8. 花冠唇部の先に18cmに達する細糸がある。……………*A. trilobata*
        8. 花冠唇部の先に45cmに達する細糸がある。……………*A. macroura*
      7. 葉は3裂せず。
        9. 茎は平臥性。葉は卵状心形。……………*A. clausenii*
        9. 茎はつる性。
          10. 葉は広卵形。……………*A. raja*
          10. 葉は卵状3角形。……………*A. triangularis*
    1. 花冠は2唇形。
      11. 上唇は下唇よりずっと長い。
        12. 上唇の基部は舟形で広い。……………*A. cymbifera*
        12. 上唇の基部は狭くて柄となり上方は広まる。

13. 上唇の柄の上部は腎臓形に広まり、波縁。上端は凹形。……………A. labiata  
 13. 上唇の柄の上部は腎臓形でなく広まり、上端は円形。……………A. ringens  
 11. 上唇は下唇と同長か少し長い。  
 14. 上下唇は同長。……………A. gibertii  
 14. 上唇は下唇より少し長い。……………A. esperanzae

**0186 *Aristolochia arcuata* Masters** - in Mart., Fl. Bras. 4(2): 101, t.22, f.2 (1875)

【Bibl.】Hoehne, Mem. Inst. Osw. Cruz 20(1): 81 (145) t.78, 79 (1927); P. Corrêa, 2: 298 (1931);  
 Hoehne, in Fl. Brasílica, 15(2): 103, t.76, 77 (1942); P. Corrêa, 4: 488 (1969); Angely, 1  
 : 167 (1970); et 2: 412 (1977); Lorenzi, 18 (1982)

【伯名】ジャリーニャ・ド・カンボ Jarrinha-do-campo, Jarrinha-preta, Cipó-milhomens

【分布】ブラジルの特産。

【形態】つる性。長さ1~2 m。全体無毛。葉はほこ形で深心脚、長さ10 cm、幅4~5 cm。花は単生、  
 長さ6~7 cm、黄緑色の地に赤褐色の脈理と、唇部に暗紫色の斑紋と縁毛がある。

【用部】茎、根-caule, raiz

【成分】研究の発表はない。

【用途】興奮剤、発汗剤、強壯剤、利尿剤、消毒剤、解熱剤として用いられる。

【特記】原野や再生林などに多く自生する。花期9~12月。

**0187 *Aristolochia clausenii* Duchtr.** - Ann. Sc. Nat. ser.4. 2: 57 (1854)

【Bibl.】Duchtr., in DC., Prodr. 15(1): 466 (1864); Masters., in Mart., Fl. Bras. 4(2): 96  
 (1875); T. et G. Peckolt, Hist. Pl. Med. 6: 1018 (1896); Hoehne, Mem. Inst. Osw. Cruz  
 20(1): 65 (129) t.57 (1927); et in Fl. Brasílica, 15(2): 126, t.106 (1942); P. Corrêa, 4:  
 485 (1969); Cruz, 68 (1985)

【伯名】ジャリーニャ・ド・カンボ Jarrinha-do-campo, Jarrinha-rasteira-do-cerrado

【分布】南米。

【形態】匍匐草。葉は円形で深心脚、円頭、長さ3~6 cm。花は葉腋に単生し、唇部内面に赤褐色の  
 斑紋がある。長さ15 mm。

【用部】根、茎-raiz, caule

【成分】研究の発表はない。

【用途】強壯剤、発汗剤、解熱剤として用いられる。

【特記】乾燥地の草原に自生する小形の種類である。花期は10~2月。

**0188 *Aristolochia cymbifera* Mart. et Zucc.** - Nov. Gen. et Sp. 1: 76, t.49 (1824)

【Bibl.】Duchtr., in DC., Prodr. 15(1): 469 (1864); Masters, in Mart., Fl. Bras. 4(2): 108,  
 t.24 (1875); T. et G. Peckolt, Hist. Pl. Med. 6: 1027 (1896); Hoehne, Mem. Inst. Osw.  
 Cruz 20(1): 47 (111), t.39 (1927); P. Corrêa, 2: 117 (1931); Fonseca, Rev. Fl. Med. 6  
 (3): 162 (1939); Hoehne, in Fl. Brasílica 15(2): 60, t.25 (1942); G. Peckolt, Rev. Fl.  
 Med. 9(7): 361 (1942); Menezes, 201 (1949); Coimbra, 112 (1958); Angely, 205 (1958);  
 et 1: 168 (1969); Braga, 392 (1976); Angely, 2: 413 (1977); Silva, Pl. Med. Bahia  
 719 (1979); Torres, 296 (1986); Berg et Silva, Acta Amaz. Supl. 18(1-2): 10 (1988)

【Syn.】*Aristolochia labiosa* Ker-Gawl., Bot. Reg. t.689 (1822); Balbach, 451, 458 (1972)  
*Aristolochia orbiculata* Vell., Fl. Flum., 9: t.96 (1831)